

大松明清めし路を神輿ゆく  
腹巻に柙をさして神輿担く  
神の魂神輿に移す真暗がり  
神輿洗お先太鼓を打ち鳴らし  
神輿洗ひ水ふりかかるうれしさよ

【神輿】

須佐之男の神輿荒ぶる炎暑かな  
素戔鳴尊といへる神輿ぶり  
鈴鳴つて神がかりゆく神輿ぶり  
おみこしにほいとほいとついでゆく

【鷺舞】

夕涼や羽をひろげて鷺の舞  
毗に紅の涼しき鷺の舞

【曳初め】

船鉾に一雨ありてお曳初め  
曳初めや鉾より鉾を囃しては  
吾も今綱持つ一人お曳初め

【鉾町】

鉾町に育ちし人を姑に持ち  
鉾町の生まれと言ひて気丈なり

長谷川浩子  
真鍋倭文字  
中西幸雄  
清田喜代子  
澤田美那子

萬燈ゆき  
長谷川權  
同  
同

秋枝雪子  
澤田美那子

山本華子  
上田忠雄  
大塚直子

中村汀  
同

鉾町や梅雨夕焼のその中に  
鉾の町献燈当番貼つてあり  
匂ひたつ柙横たへ鉾の町  
鉾町に嫁ぎてともす祭の灯  
鉾町の大路小路や日が暮るる  
鉾の町山の町とて歩きゆく  
鉾町といふ乾坤のにぎやかな  
家苞の掛香選るや鉾の町  
鉾町に生まれて鉾の奴かな

【鉾粽】厄除粽  
鉾粽稲穂一すぢ混じりたる  
祭より帰りに飾る鉾粽  
鉾粽笹うつろなるをかしさよ  
花背よりとどきし笹や鉾粽  
いざ子らや鉾の粽を売りたまへ  
三方に束ねては立つ鉾粽  
北山の杉の穂を挿し鉾粽  
祇園会の厄除粽家苞に  
鉾の子の腰にさしたる粽かな  
なにもかも閉じ込め岩戸粽かな

同  
木下洋子  
上松美智子  
山田寿美子  
同  
同  
唐振昌  
山田蚩草  
長谷川權

本橋康子  
小川もも子  
中村汀  
丹野麻衣子  
同  
岩根壽美  
同  
藪本文子  
近藤沙羅  
上田忠雄

けさ秋やおくどさんにも鉾粽  
鉾粽家にいちばんよきところ  
赤ん坊を抱いて祭の粽受く  
畏みて我が家にかかぐ鉾粽  
母のため夫のための鉾粽  
うっせみの鉾の粽の涼しさよ  
加茂の母鉾の粽の笹を刈る

【祇園囃子】  
鉾処々に夕風そよぐ囃子かな  
鱧料る祇園囃の音の中  
祇園囃子豆腐の水にひびきけり  
京にゐて祇園囃子のただ中に  
香を買ふ祇園囃子を遠ざかり  
地下街も祇園囃子や冷奴  
祇園囃子はかなげにまた絢爛に  
遠く聞く祇園囃子のはかなしや  
けふの宿祇園囃子のただ中に  
かんかんと照りある祇園囃子かな  
地下街も祇園囃子の流れけり  
憂き身にも祇園囃子のひびきけり

山田寿美子  
藤原智子  
諏訪いほり  
諏訪いほり  
齋藤嘉子  
長谷川權  
同

大祇

清水芳朗  
田中政子  
植田房子  
齋藤真知子  
木下洋子  
唐振昌  
山田寿美子  
大谷弘至  
北側松太  
井上次雄  
西澤麻

はかなしと聞き入る祇園囃子かな

【鉾囃子】

祖父打ちし鉾孫も打つ鉾囃子  
夜は夜の音色となりて鉾囃子  
心急ぐ四条烏丸鉾囃子  
囃子方尻を揺らして鉾の縁  
炎天にすらりと立てて鉾囃す  
鉾囃子蕪村の家も遠からず  
鉾囃子田楽をどりさながらに

【二階囃子】

夕立の中なる二階囃子かな  
遠雷や二階囃子のたけなはに  
こいさんもくはへて二階囃子かな  
招かれて二階囃子のただ中に  
【こんちきちん】  
友人の下宿にて聞くコンチキチン  
鉾出会ふこんちきちんと囃しては  
こんちきちん煮ゆるがごとき京都かな

【鉾の笛】

戦なき世に生まれきて祭笛

長谷川權

佐々木まき  
山田寿美子  
角野京子  
氷室菜胡  
大谷弘至  
長谷川權  
同

清水芳朗  
中村汀  
唐振昌  
上田忠雄

平尾福  
長谷川權  
同

齋藤真知子